

夏至の余白

夕方になってもまだ昼間のような
電車が去った明るいホームに

LaLaLa

肩から落ちてく一日の重さ
わずかに風が頭を撫でる
帰ってきたこの駅の
階段をよじ登る

風はまだ昼の名残の
楽しさをそっと届けてくれる
この肌に触れるたび
時間がゆっくり伸びてゆくように感じる

夕方の光 まだ明るくて
ビルのガラスも 淡い金色に

LaLaLa

改札抜けた駅前の広場
進むその先のスーパーに立ち寄り
ご褒美のスイーツの
値引きを選ぶ楽しさ

夏至の光は急がずに
押し付けてくることもなくて
ただそこに満ちていて
一日の終わり柔らかく伸ばしてくれる

夕方になっても まだ昼間のような
街の輪郭 明るい余白に

LaLaLa